

STOP 糖尿病

糖尿病ケア通信第3号 2022.6.13 発行



糖尿病連携手帳活用していますか？

糖尿病連携手帳は、日本糖尿病協会が発行しています。2020年4月に改訂されています。患者さん本人と、関係する医療機関とが、情報を共有することができ、糖尿病連携をスムーズに行うための大切な手帳です。

糖尿病連携手帳の中身をきちんと見たことがありますか？

どんな内容になっているのか、今一度確認してみましょう。

【基本情報】

患者さんの情報と病態、かかりつけ医、病院、眼科医、歯科医の一覧があり、一目で分かるようになっています。さらに、患者さんの高齢化に対応できるよう、新たに担当ケアマネジャーの項目が追加されました。さらに、薬局についても記載が出来るようになりました。

【検査結果】

体重・血圧・血糖値・HbA1cなどの検査値、下段には治療のポイントが記載できるようにスペースが設けられました。尿蛋白が続くと、「腎臓に気をつけましょうね。」など、検査結果によりアドバイスをすることが出来ます。

【眼科・歯科】

検査日、眼科・歯科の施設別に網膜症の有無、歯周病の有無、次回受診日の記載欄があって、分かりやすくなっています。

【合併症関連検査】

今回、新たに新設された糖尿病に関連する種々の合併症の評価項目を一覧にして、1年間での腎症や足チェックなど合併症の評価に漏れがないようにしています。

【療養指導の記録】

自由記載欄の空欄で、あらゆる職種の方々が活用できるように、自由記載となっています。その他、糖尿病とその合併症について解説がされており、患者さんへの療養指導のための資料にもなります。糖尿病連携手帳を活用して糖尿病連携を進める上で、**患者さんと医療機関、医療関係者とを繋ぐ連絡帳**です。診療情報提供書がない場合でも、**歯科を受診する際には手帳を持参するよう説明してください**。糖尿病の血糖コントロール状態が分かり、**歯科との大切な情報共有**ができます。**旅行先で急に医療機関を受診する際は、とても貴重な医療情報**となります。糖尿病連携手帳とお薬手帳を合わせて活用していただくことで、患者さんの糖尿病治療の目標達成のために是非お役立てください。



糖尿病連携手帳は、基本情報やかかりつけ医など記載し、普段から持ち歩くことをお勧めしています。万が一の時に手帳があると、糖尿病だということ、現在の治療、かかりつけ医などの情報が分かるため、早急に対応できるからです。

「持ち歩こう、糖尿病手帳」と是非説明を！

文責：4東松尾・中野渡(博)